

2025年3月

ぬくもり

編集と発行 人権啓発ネットワーク大東
〒574-8555 大阪府大東市谷川1丁目1番1号
電話 072-870-0441 FAX072-872-2268

12/5 人権週間記念のつどい

サーキティホール（大東市立総合文化センター）2階大ホール

きせき

奇跡の7本指のピアニスト

ご へい

西川悟平トーク& コンサート

女声合唱団「夢夢」のオープニングアクトの後、西川悟平さんが登壇されました。西川さんは堺市出身で、地元大阪での開催なので、関西弁でお話しされ、随所に笑いをちりばめたトークで来場者1,000名を超える会場を沸かせました。ピアノ演奏とともに自身の半生を語るエピソードはどれも、私たちは経験することのないドラマチックなものでした。



強盗との約束

2015年1月、マンハッタンで暮らしていた西川さんのアパートに2人組の強盗が入ります。最初は怖かったけれど、彼らの生き立ちに興味をもち尋ねると、徐々に悲惨な幼少期や、ホームレスとして生きてきたことを話し始めます。それを聞いた西川さんは号泣し、ここにあるものは何でも持て行っていいと伝え、美味しい日本茶をふるまいます。8時間くらい話をし、ピアノが弾けるのかと言われ数曲弾いたところで、一人が、「実は今日誕生日なんだ。」と言うのでハッピーバースデーを弾いてあげると、「自分のために演奏してもらい、生まれてきたことを祝福されたのは初めてだ。」と感謝し、何も取らず、さらには、家の修理や掃除までしてくれました。西川さんは、強盗の通報はないから、どんな仕事でもいいので働いて欲しいと言い、「いつかカーネギーの大ホールで、自分がメインで演奏するという夢が叶ったら、その時は二人をVIP席に招待する。」と約束し、連絡先の交換までして別れます。



その後、2016年12月に国連のパーティーで西川さんがカーネギーホールで演奏することになりました。

約束したとはいえ、国連行事に強盗を招待することはできないのではと思い、主催者に相談すると、「お前から約束を破ることはしてはいけない。」と、最高のボックス席を用意し、あの二人がスーツを着て会場に現れ、約束は果たされました。その後、彼らからのメールで、清掃の仕事に就き、中古車だけど日本の車を買ったから見て欲しいと写真が添えられていたそうです。

ピアニストをめざしてニューヨークへ

ピアノ演奏のあと、ピアニストをめざすきっかけについて話されました。15歳でピアノを始め、猛特訓の末、大阪音楽大短大を卒業するも、音大への編入試験に2度失敗したこと、和菓子屋に就職したそうです。働きながら演奏は続け、ある日、来日したデュオピアニスト、デイビッド・ブラッドショーとコスモ・ブオーノの前座として舞台に立つことが決まりました。猛練習の甲斐なく本番でミスをしてしまい、先生には、「そんなことではプロにはなれない。」と注意されました。でも、その演奏を聴いていた主演のピアニストからは、「ミスはあったがいい演奏だった。」と言われ、西川さんが和菓子屋で働いていることを知ると、「それが本当に君のやりたいことなのかい？本気なら、ニューヨークへ来て僕たちの弟子になるといい。」と説きました。

ジストニア発症

渡米し、プロピアニストとなって2年ほどで、指が動かなくなるジストニアという病気を発症し、5人の医師から、一生ピアノを弾くことはできないと告げられました。落ち込んでいたところ、幼稚園を営む知人に、「子どもたちに会いにおいて。」と声をかけられ、コネチカット州の幼稚園を訪れます。子どもたちからせがまれ、左右合わせて動く5本の指で、「きらきら星」をゆっくり弾いたそうです。子どもたちは誰一人として指のことを気にせず、「上手だ。もっと弾いてほしい。」と喜びました。動かない指をコンプレックスに感じ、人前でピアノを弾くことをためらってきましたが、このことをきっかけに、(指が動かないのではなく、動く指がまだある!)と考え方を切り替え、かつての技巧を駆使した派手な演奏から、シンプルな音の一つ一つを大切に紡ぐように演奏するスタイルに変わっていったそうです。



かな 語り続けて叶えた夢

ジストニアを発症してから、リハビリを経て演奏を重ねるうちに、大舞台に立つ機会が増え、2021年には東京パラリンピック閉会式の大トリ(最後の演奏)を任せられました。

東京でオリンピック・パラリンピックが開催されると知ったときから、この舞台で演奏したいと強く思い、いつでもどこでも、この夢を語りました。そして、ロンドンで知りあった映画プロデューサーから、「自分の撮った映画が日本で公開されるので、そのイベントでピアノを演奏して欲しい。」という依頼があり、そのイベントでも夢を語りました。その会場にパラリンピックの関係者が来ていて、閉会式での演奏が実現したのです。

夢は控えめにではなく、思い描いたままを言い続け、努力してきたことで、不可能と思われるようなことを実現させてきた西川さんのトーク&コンサートを、もっとたくさんの方に聴いて欲しいと思いました。

(レポーター:さざ浜)

「ぬくもりのまち」でのフィールドワーク



昨年の11月5日(火)、「ぬくもりネットだいとう」(人権啓発ネットワーク大東)で毎年実施している「役員・常設委員交流フィールドワーク」に参加しました。

今回のフィールドワークでは、羽曳野市の向野地域にある「南食ミートセンター」(と畜場)や「あいあい保育園」、人権文化センターなどを訪問し、地域の食肉産業の歴史や「人権と福祉のまちづくり」について学びました。

向野地域では900世帯のうち6割近い世帯が食肉産業に携わっています。例えば牛がスーパーのトレイのお肉になって棚に並ぶまでには、当然のことですが、牛を解体し部位ごとに加工する作業が必要です。向野地域で牛の解体や加工に携わる人たちは「牛を殺す」とは絶対に言わず、「牛を割る」と言うそうです。おいしい焼肉が食べられるのもその工程があってのことですが、それを担っている人たちに対して、「牛殺し」などという心無い差別発言があったりするといいます。

お肉をつくる人は差別され、お肉を食べる人は差別されないという不合理と差別性を克服するために、「南食ミートセンター」の見学が計画されました。また、食肉産業のまちとして差別されてきたからこそ、「福祉と人権のまち」、「ぬくもりのまち」をつくろうということで、まちづくり協議会やNPO法人を結成し、診療所や保育園を設立してきたそうです。

NPO法人が運営している「あいあい保育園」は、羽曳野市の委託を受けて、病気が治りかけの子どもを一時的に預かる「病後児保育」を行い、市内の子育て世帯の保護者が仕事を休まずにすむよう、専用の車で送迎したりもしています。



▲「畜魂碑」の前で集合写真



食肉産業について正しく知ってもらうなど、人権啓発のための見学・学習も数多く受け入れていて、羽曳野市立の小・中学校の生徒たちも毎年フィールドワークで訪れています。

南食ミートセンターの見学では、食肉の加工の技術を誇りにされていると感じました。また、「畜魂碑」を建てて牛馬を供養し、地域の方々が生花やお線香を欠かすことなくお参りされているそうです。牛や馬に対する感謝の気持ちで、その命に手を合わされているのだなと思いました。

毎日当たり前のように食事していますが、私の命はたくさんの命をいたしているということを忘れずに、「美味しいかった。ごちそうさまでした。幸せ。」と口に出して感謝したいと思いました。

(レポーター:なっちゃん)

2024年度重点啓発テーマ「子どもの人権」

大東市 の



「子ども 食堂」

「ぬくもり」では、大東市で運営されている「子ども食堂」を順に取材させていただいております。

第3回は、「あーす地域食堂」さんです。

※ 過去の「ぬくもり」は、大東市ホームページでご覧いただけます。→ → →



あーす地域食堂は、2021年2月から始まりました。「障害者地域生活支援センターあーす」の場所で毎月開催しています。運営は、「社会福祉法人ふらっぷ」職員と、訪問介護ステーション「愛ホームヘルプサービス」のヘルパーさんが、ボランティアで主に調理に関わって下さっています。子どもの頃から地域の多様な価値観や立場の方々との交流の場になればという願いから、名称に「地域」を入れました。開始当時は、コロナ禍真っ只中で、活動のスタートは、お弁当配布からでした。当初は、障がい者や高齢の方も受け付けしていましたので、40食程度から始まり、多いときには80食を超えることもありました。



コロナ禍が明け、昨年5月からは「あーす」活動スペースでの対面会食が始まりました。食事のあとは、遊びや工作などのプログラムをしています。現在は、スペースの問題もあり、子どもたちと保護者・ご家族のみを対象としており、40食程度になっています。

おおさかパルコープさん、大東市の橋本ファームさん、大阪中央ダイカスト株式会社さん、大阪府などから野菜や食材等の提供を受け、不足分は、大東市補助金や市民からの寄付金などで賄っています。ボランティア・スタッフには、市民や障がい当事者が一緒に、調理や配膳、配布物の準備などを行っています。共に行うことで、障がいのある方が地域や社会参加につながることも特色です。手作りで、美味しい野菜たっぷりの食事にこだわり、子どもたちの「安心」「健康」「居場所」づくりに取り組んでいます。

子どもたちに接していると、子どもの力は素晴らしいと、あらためて実感します。すぐに友達になり、その子に会いに来られる。どこに何があるか覚えていて、自分たちで出してくれる。子どもどうしの「もう子どもやないんやから、ちゃんといい。」という会話に、大人は大爆笑。ご飯を残す子に、「食べられない人がいるのに、バチが当たるで。」と言ったり…と、楽しいエピソードは盛りだくさんで、準備や片付けの疲れも吹き飛びます。

年上の子が年下の子の面倒を見、また、障がい者が子どもたちの世話をする姿に、普段は見せない、その人の優しさや、社会性に気づいたりもします。そして、こちらが元気をもらっているのがわかります。

地域食堂を開催することで、親どうしの交流や、しんどさを抱えている方々と知り合えるきっかけになったり、大東市で活動する子ども食堂や様々な地域の方々と出会う機会になっています。色々な方が出入りすることで、障がい者へ



の偏見などがなくなり、しんどいときや困ったときに「ちょっと相談してみようかな。」と思っていただき、「地域にあってよかった。」と言っていただけるような場になればと思っています。

地域とのつながりを深めて、そうした先に、たとえば災害時など困ったときに、みんなで助け合えるような地域になっていけば良いなと思います。 (レポーター:あき)

* 運営団体 社会福祉法人ふらっぷ 協力団体 愛ホームヘルプサービス

* 名称 あーす地域食堂

* 場所 大東市三住町2-1 地域生活支援センターあーす TEL 072-874-9900

* 実施日時 第3土曜日 12:00~13:00 (~14:00遊びや工作)

* 参加料 中学生以下:無料、高校生以上:300円

* 定員 30名 (ラインからのお申込み)

【QRコード】



「平和なまち絵画コンテスト作品表彰式を行いました」

平和なまち絵画コンテストとは、平和教育の更なる充実を目的として実施する絵画コンテストであり、2024年8月に、市内の6歳から15歳の方を対象に絵画作品を広く募り、248作品の応募がありました。人権啓発ネットワーク大東の委員により選考を行い、最優秀作品には6歳~10歳の部で川嶋 萌結(かわしま めい)さん(6歳)、11歳~15歳の部で村田 野々花(むらた ののか)さん(11歳)が選ばれました。

そして、それぞれの部から各4作品を入選として決定しました。

最優秀作品、入選作品に選出された方の作品については、平和首長会議に応募を行いました。

作品については、下記ホームページ(QRコード)よりご覧いただけます。



かわしま めい
川嶋 萌結さん (表彰式写真右)

パリオリンピックを見て世界にはいろんな国の人いろいろな人がいることをしました。いろんな国旗や人を描いて、だれとでも仲良く楽しくすごせるところを描きました。



むらた ののか
村田 野々花さん(表彰式写真左)

世界中の国が仲よくして戦争がなくなって笑顔があふれる地球になってほしい。



<https://www.city.daito.lg.jp/soshiki/19/58844.html>



戦争と 平和 けいしょう ～私の継承、世代の継承

両親から聞いた戦争体験

これを書いている私は今、63歳です。私の両親はすでに亡くなっていますが、子どもの頃、両親から戦争の体験談を聞いたことを覚えています。

父は香川県の小豆島に暮らしていました。10代の頃だったと思います。のどかな田舎の島にも戦争の相手国であるアメリカの戦闘機が飛んてきて、父は上空から「機銃掃射」(機関銃による攻撃)を受け、必死に走って逃げたという話をしていました。

母もまた同じような年頃だったと思いますが、大阪に住んでいて、空襲から身を守るために防空壕に避難していたという話をしていました。大小あわせて50回を超える大阪空襲では約1万5千人の犠牲者が出了とされています。

私の両親はどんな思いで戦争体験を子どもの私に話していたのかと、今になって思います。

学校での取り組みも遠い記憶ながらも思い出されます。経済の高度成長時代を迎える頃、戦争の記憶を風化させないように、平和学習が熱心に取り組まれていたと思います。内容は正直覚えていませんが、学校で受けた平和教育もまた今の自分に何らかの影響を与えてくれていて、当時の教職員や戦争体験者の思いを想像することができます。

戦後80年を迎えて

先の戦争が終った1945年から今年で80年を迎えます。

たとえば終戦時に生まれた人は80歳になります。記憶にあるのが10歳としても、その方は90歳に。20歳の大人では100歳になります。

「8月ジャーナリズム」といわれる新聞やテレビなどで取り上げられる戦争体験の取材を受けるのはもう90歳や100歳を超える方がほとんどのようです。戦争を体験した方から直接話を聞くことができなくなる日が確実に近づいていると実感できます。

家族や友人を亡くし、傷つき、財産を失い、命を奪われる危機の中を生き延びた戦争体験者たち。その思いは、戦争は悲惨であり、絶対にしてはいけないという、心の底から訴えるような思いだと想像します。そして、その裏返しとして、平和がいかに尊いかということも。子や孫など、後につづく世代の人間に何としても伝えたいという思いでしょう。



私の継承、世代の継承

これを読んでいるあなたはどうですか。

▲広島「原爆ドーム」筆者撮影

戦争の時代を生きた人から直接話を聞いた経験はありますか。学校で受けてきた平和教育や平和学習の取り組み、戦争の傷跡の残る場所への訪問など、これまでに影響を受けた経験はありますか。いや、戦争を体験された方もこれを読んでいらっしゃるかと思います。

その強い思いには及ばないかもしれません、戦争の悲惨さと平和の尊さに対する思いを引き継ぎ、後の世代につないでいく責任のようなものを感じています。それが戦争体験者の願いであり、その願いに応えねばと思います。戦争を直接知らない世代による継承です。

世界にも目を向けて

6年前、遅まきながら57歳にして初めて広島平和記念資料館を訪れました。館を訪れていた半数ほどが

外国からの訪問者という印象を受けました。日本を訪れる多くの観光客の中にも、ヒロシマに関心を寄せる外国人がいることに勇気づけられました。

約3年前、ロシアによるウクライナへの侵攻^{しんこう}が始まったとき、今の時代にこのようなことが起きるのだと驚いたものです。人類にとって戦争は過去のものではなく、戦争を繰り返す人類の歴史の中に自分は生きていると思わされました。戦争体験者の方々の受け止め方はまた違っていたのではと思います。

戦後80年の今年、関連する多くの報道やイベントが行われることでしょう。日本だけではなく、世界にも目を向けて、戦争と平和、歴史の継承について考え、何らかの行動に移していきたいと思います。

読者の皆さんもぜひ。

(レポーター:かわかず)

—2024 人権啓発ネットワーク大東ふりかえり—

2/10

サーティホール多目的小ホール

ヒューマンコンサート

手話と歌で笑顔になろう

歌手yokkoさんの優しくも力強い歌声と、手話パフォーマンスに引き込まれました。以前、声の出なくなったことのある yokko さんがその経験を交えて、障がいのある方に一人でも多く聞いてもらいたいと歌と手話を一つにするスタイルでステージを開きました。



5/1~4

野崎観音会館

いわさきちひろ 平和パネル展

戦火の中の子どもたちがつづった文章とともに描かれたモノクロの絵が展示され、大東市の図書館から運ばれた絵本を手に取ることもできました。

5/10

サーティホール大ホール

憲法週間記念のつどい

お笑いじんけん寄席



963名の市民で満員となりました。人権落語で大東市と長いお付き合いのある露の新治さん、笑福亭鶴笑さんの爆笑パペット落語、天台宗僧侶でもある露の団姫さんのお話、そして、桂文福さんの人権、差別に関するお話、最後には舞台上で多くの方が歌い、踊るという圧巻のステージとなりました。



6/30

大阪市生野区

コリアタウン フィールドワーク 「猪飼野」の今昔
～太古から今も続く朝鮮と日本の交流の地を訪ねて～

キムチの店の並ぶ鶴橋国際マーケット、御幸森神社、韓国・朝鮮料理の店やファストフード、食材、化粧品、雑貨などの店が連なるメインストリート、旧大阪朝鮮第四初級学校、元大阪市立御幸森小学校(現「いくのパーク」)、大阪コリアタウン歴史資料館等を訪ね、日朝間のさまざまな歴史を知り、意見を交流する一日となりました。

人権啓発ネットワーク大東とは (ぬくもりネットだいとう)

近年、子ども・障がい者・高齢者等への虐待や特定の民族に対する憎悪表現など多くの人権問題がニュース等で取り上げられています。社会環境が大きく変化し、まだまだ「人権」が尊重されていない状況が現在の日本には存在しています。

大東市では、人権尊重のまちづくりをめざし、市民による市民のための自主的な組織として「人権啓発ネットワーク大東」が2013年4月1日に設立しました。

2023年、設立10周年を記念し、公募を経て「ぬくもりネットだいとう」という愛称が決まりました。

目的

一人ひとりが生まれながらにもっている基本的人権が尊重される社会の実現に向けて歩み続けるため、自らの人権意識を高め、お互いの人権を認め合うとともに、わたしたち市民が行政と協力して、人権啓発活動を積極的に行い、人権尊重のまちづくりをめざす。

活動内容

- ・自らの人権意識を高めるための研修会などへの参加・参画。
- ・人権尊重の理念を広く市民に広げるための啓発・広報活動など。



☆入会案内

「このまちをよりよくしたい。そのために何かをしたい。でも何をしていいかわからない…」というあなた！お互いの人権を認め合い、地域の発展、人権尊重のまちづくり、そんな社会の実現に向けて、一緒に活動しませんか？

※詳しくは[大東市ホームページ](http://www.city.daito.lg.jp/) (<http://www.city.daito.lg.jp/>) に掲載していますのでご覧ください。

※「人権啓発ネットワーク大東」のFacebookも開設！

様々な活動の報告や、ほっとひと息いい話といった人権に関する小話など
情報発信していますのでこちらもぜひご覧ください。

(<https://www.facebook.com/>
人権啓発ネットワーク大東-1987405014833313/)



入会等の申し込み・問い合わせ

人権啓発ネットワーク大東事務局（大東市人権室内）

〒574-8555

大東市谷川1丁目1番1号

T E L: 072-870-0441

F A X: 072-872-2268

E メール: j_keihatsu@city.daito.lg.jp

